

大河ドラマ『南海道の晴嵐』を期して（二七六）

文・出水 康生

戦国おもしろ百話

ひなせ
しずたに
日生・閑谷学校・夢二の生家・長嶋愛生園歴史回廊にて

—— L9（エルナイン）喜寿同窓会、今にして学ぶ ——

戦後七〇年の今

「平和憲法と共に歩んだ日本」の立場が転換されるかの歴史的な今を迎えている。集团的自衛権を容認する「安保法制の諸法」が閣議決定を基盤にして、憲法違反、立憲主義を崩壊させるものとの国民の多くの声を無視して強行採決がされようとしている。その強行の中心に安倍晋三首相がいて祖父岸信介元首相を畏敬して、その信念を継承・実現させることに執念を燃やしている。現在の「集団安保」の前に「日米安保」が有り、それ

が五年前の一九六〇年の「安保騒動」であって、その時に青春の学生であり、L9の面々が共にデモ行進をし、深刻に悩んでいた。

L9とは「もはや戦後ではない」と経済白書に記録された昭和三二（一九五七）年に旧制姫路高等学校の校舎・白陵寮を継承した神戸大学教養課程に入学した文学部の同期性のことである。終戦・敗戦の時に国民学校一年生であって「教育勅語」を入学式の時に聞いたかの記憶がある程度で「ものごころ」のついた戦後の七〇年を生きて来た

者たちである。その者たちが戦後七〇年の今年に「喜寿」を迎え、万感の想いを胸にして年々歳々の同窓会を八月二十七（二十八日）に開催。生涯を人権教育に尽力した姫路の岸本守兄が幹事長・世話役。止むない次第があつてドタキャンの二人が欠席となったが、異能・曲者の十勇士が日生諸島の鹿久居島の鹿久居荘での昼食に集結。やあ、おうの単純明快な手を挙げての再会。本来の集合場所は正午にJR赤穂線日生駅であつたが、我らに乗せて走る広瀬豊英車が予定時間を三〇分超過したこと

による。それにしてもケータイは相互の情報と腹立ちを鎮めるのに便利であることを再認識。

好天の閑谷学校

猛暑の後の天候が盆を画期として気温降下、台風襲来で急変した。世話役の気をもませた八月下旬、集合の日が青天白日の好天であつた。昼食の後に「たぬき展望台」から瀬戸内海を眺望する。展望塔上に同志の十勇士のうち九士が写真を撮りあう。歳月を経ての同窓会の年々歳々の会合の素晴らしさを想う。

閑谷学校への訪問は三度目となる。最初は若い日の地方史研究会の歴史探訪、二度目は娘が結婚する相手の住居がその地にあつて、表敬の訪問をして、その時に一同で案内してもらつた。三度目が今回の探訪である。探訪の時々に見えるものが異なる。閑谷学校は名君の誉れの高い岡山藩主の池田光政が寛文十（一六七〇）年に津田永忠をして建

立させたもので、その時の建立の講堂は国宝であり、他の構造物は重要文化財に指定されている。閑谷学校が完成されるのは光政の死後、元禄十四（一七〇一）年の二代藩主綱政の赤穂浪士の吉良邸討ち入りの頃で、庶民教育を目的とする学校建造物としては世界最古のものと考え、現在にも建学の思想が継承されて、閑谷に「論語朗誦の声」が響く雰囲気が存在している。孔子廟の前に孔子の生地曲阜の孔子林の種から育てた一対の櫓の木が大本となり、秋には見事に紅葉する。磨きこまれた講室の床面が反射し、そこに正座しての論語朗誦が勉学法。『閑谷学校・あいいうえお論語』の小冊子を購入する。論語の名言を「あ」から「わ」までの頭音で編集している。「あ」の項に「過ちて改めざる、是を過ちと謂う」。「わ」の項には「吾十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天



青天の「たぬき山展望台」へ



螺旋階段を登り詰めての展望台を背にして



閑谷学校の講堂（国宝）



孔子聖廟前の櫓の木



「いこいの村岡山」の案内板



宿舍の窓から朝日日本百選の旭が昇る



竹久夢二の生家

命を知る」と記録されている。
むしあけせと

虫明迫門の曙

宿泊は日本の朝日百選認定の虫明迫門の曙を眺望する「いいの村岡山」である。平氏を全盛に導く平忠盛が「虫明の迫門の曙見る折りぞ都のことも忘れにけり」と詠んでいる。立春から数えて二百十日（九月一日頃）の前後一週間が最高のものとされ、その時期に会合・宿泊して、長島と鴻島の間、その先の大名府島と頭島の間、天と海の接する辺りから朝日が昇り始めると、空と海、島々は美しく黄金色に染まる。その景観はまさに荘厳とされる宿で交歓、互いに熱唱。その翌朝にその景観を写真に撮るためにデジカメを構え同室の同志を起したが、デジカメではなあ、とする。

竹久夢二の生家

瀬戸内市邑久本町本庄に竹久夢二の生家が二五〇年ほどの歳



長島愛生園の歴史館、万人の思いがこもる



帰りたい、帰れないの思いの納骨堂



新良田教室の閉校時に建てられた碑



希望の碑の裏面

今にしてハンセン病を認識

ハンセン病が弱い感染力の「らい菌」によるものであることが一八七三（明治六）年にノルウェーのアルマウエル・ハンセンによって発見され、多くの化学者の努力による「プロミン」の製造、さらに改良されたダブソン・クロファジミン・リファンピシンの三者併用による二年の治療によって完治とすることが証明される。それが一九八一（昭和五六）年であった。ハンセン病菌が結核菌によく似たものであり、国民病のようにされた「肺病・結核」が「ストマイ・パス・アイナ」の三者併用の化学療法で完治するとされた時代と同時期である。これも戦後七〇年の時代の偉大な成果である。

結核とハンセン病が歴史的に「肺病・癩病」とされて仏教的な因果思想によって「前世の悪業の罰としての業病・天刑病」とされて来た。そのためにどれほど多数の人々が前途有為の道を閉ざされたかは周知のとおりである。結核の国立療養所は廃絶されたが、ハンセン病の国立療養所はいまだ十三か所が存在して一七八人が平均年齢が八三・九才で生活している（本年五月一日現在）。今にしての再認識をさせてくれた長島愛生園には二二五人、大島青松園に八七名、最近に再認識され、川端康成に見出されて『いのちの初夜』を世に出し、自身の思いのたけを文学的に表現した北條民雄が自殺願望を克服して生きるために入った多摩全生園には二一三人が生活している。

完治できるハンセン病が日本史、世界史に記録される。古代エジプトでのごが旧約聖書、イエス・キリストによる救済が新約聖書に記録され、日本では聖武天皇の国分寺、国分尼寺による鎮護国家を祈念した時の聖武天皇・光明皇后の施薬院の治療のことが日本書紀に記録される。

戦国時代の屏風絵に白布で顔を隠した人々が描かれ、関ヶ原合戦に刎頸の友としたとされる石田三成の義侠に応じて西軍に敦賀城主の立場から一族と共に参戦した大谷刑部少輔吉継が白頭を号としたことが、ハンセン病であったと推測されている。近代日本でのハンセン病の対応は一九〇七（明治四〇）年の

「癩予防法」制定から始まり、「浮浪癩」の隔離から次第に「不治の病・業病」の恐怖が払められ、一九二九（昭和四）年に国立療養所の設置が決定され全ての患者を終生に療養所に隔離することが強行される。それが「無癩県運動」として行われ長島愛生園に入寮を強制された。それが一九三一（昭和六）年の満州事変から太平洋戦争の時期と重なり、「日本民族の浄化、強化」の思想が含まれ、ドイツナチスのユダヤ民族の虐殺と重なること、隔離が国策による強制、強行であることを知る。日本のハンセン病対策の中心となった光田健輔の「完全隔離策」の功罪が論じられ、光田への私淑から献身的にその下で治療に当たった小川正子、その『小島の春』も文学的には評価されながらも国策の強行に協力者になっていること、に時勢を徐々に創り上げる時の権力者の偏執意志の「信念・妄執」によってのものであること、に恐怖を覚える。熊本地裁の「らい予防法」違憲国家賠償請求で原告勝訴の判決に時の小泉純一郎首相が「国は控訴せず」と決断、謝罪を評価、二〇〇一年のこと。『妄執の信念』で「平和憲法と共に歩んだ日本」の時勢を転換させ、「違憲」の声に耳をかさない安倍晋三首相の決断の『今』にこの稿を書く。

「癩予防法」制定から始まり、「浮浪癩」の隔離から次第に「不治の病・業病」の恐怖が払められ、一九二九（昭和四）年に国立療養所の設置が決定され全ての患者を終生に療養所に隔離することが強行される。それが「無癩県運動」として行われ長島愛生園に入寮を強制された。それが一九三一（昭和六）年の満州事変から太平洋戦争の時期と重なり、「日本民族の浄化、強化」の思想が含まれ、ドイツナチスのユダヤ民族の虐殺と重なること、隔離が国策による強制、強行であることを知る。日本のハンセン病対策の中心となった光田健輔の「完全隔離策」の功罪が論じられ、光田への私淑から献身的にその下で治療に当たった小川正子、その『小島の春』も文学的には評価されながらも国策の強行に協力者になっていること、に時勢を徐々に創り上げる時の権力者の偏執意志の「信念・妄執」によってのものであること、に恐怖を覚える。熊本地裁の「らい予防法」違憲国家賠償請求で原告勝訴の判決に時の小泉純一郎首相が「国は控訴せず」と決断、謝罪を評価、二〇〇一年のこと。『妄執の信念』で「平和憲法と共に歩んだ日本」の時勢を転換させ、「違憲」の声に耳をかさない安倍晋三首相の決断の『今』にこの稿を書く。